



# 珠算式暗算をマスターしよう!



教室ではソロバンの6級に入り、ある程度安定して珠が弾けるレベルになったら、暗算の練習をスタートします。左脳を使う筆算(ひっさん)式暗算とちがい、珠算式暗算は文字通りアタマの中にそろばんをイメージしながら(右脳を使って)計算処理していくので、ケタ数や口数が増えたとしても速く、そして正確にできるようになります。ただし、やみくもに練習をすれば暗算が出来るようになる訳ではなく、一定のルールを守ったうえでやらないと、珠算式暗算は身に付きませんので、そのあたりのお話をします。(※筆算とは、途中の過程を紙に書きながら行う計算のこと)

Point!



- ◇ アタマの中にソロバンの珠をイメージする
- ◇ 必ず指を動かしながら練習する
- ◇ そろばんと同じ指の動きをする



## そろばんの珠をイメージする

例えば2ケタの見取り算(足し算・引き算)の場合、筆算式暗算では1の位から計算して答えを出し、次に10の位を計算して答えを出していきますが、珠算式暗算は2ケタの珠をそのままイメージして上からスツツと計算していきます。

72  
56  
83  
94  
40

左にあるのは暗算3級見取り算の問題ですが、筆算式暗算でやろうとする場合、まず1の位をみて  $2+6+3+4+0=15$  になるのでまずは答えの欄に5を書き、その後10の位の1に追加して、 $1+7+5+8+9+4=34$  となるので、答えは345...という感じのプロセスになります。一方、珠算式暗算では目の前にソロバンがある場合と同じ方法で計算していきますので、上から順に  $72+56+83+94+40$  と処理していきます。

## 必ず指を動かす

この点はとても大切なのですが、指導した通りの珠算式で計算しても正しい答えにならないとき、コッソリ筆算式でやってしまう生徒もいます。筆算式で計算しても答えだけを見ると正しい答えになるからです。このような場合、指導者は、その生徒がキチンと指を動かしているかどうか、または指を適当に動かしていないか、は生徒の指の動かし方を見れば瞬時に分かってしまいますので気をつけましょう(^^)/ また答えを記入するときに、一の位から書き始めたら即アウト~です。

上級者や有段者になると、逆に指を動かすと明らかに時間ロスになるので、指はほとんど動かさない場合の方が有利になりますが、彼らは暗算スキルがきっちり定着しているから、そんな凄ワザが可能なのです。同じことを暗算を習い始めの初心者がマネしても普通は絶対に出来ません。まずはアタマの中に想像ソロバンを置いて、基本通り指を動かす練習を何度も繰り返し行うことで、ソロバン脳が少しずつ出来上がっていきます。焦りは禁物!ポチポチいきましょう~。

\*誤解を避けるために少し補足説明しま~す。先ほどから珠算式暗算の重要性を説いていますが、だからと言って筆算式暗算を軽視してはいけません。学校の算数で教えてもらう筆算方法はとても大切ですし、特にケタ数の大きい掛け算や割り算など珠算式暗算だとスムーズに出来ない難しい問題であっても、筆算方法なら簡単に解けることもあります。珠算式、筆算式、ふたつの方法ともキチンと学習することが肝要。一番ダメなのは、そろばんを習っているから、暗算が得意だからという理由でいい加減な気持ちで算数の授業を受けること。あとで絶対に困ってしまいますよ~。

## そろばんと同じ指の動きをする

ソロバンでは正確な指の動きをしているのに、なぜか暗算になると途端にメチャクチャになってしまう生徒がいます。きっと急いで計算しなければならないという気持ちが無意識に働いてしまうのだと思いますが、折角の練習もそれでは無駄になってしまいます。暗算でもソロバンでも、弾を動かすときに使う指や、動かす順序は全く同じです。上でも述べましたが上級者になり珠算式暗算スキルが定着してくると、指を使うよりアタマの中で処理したほうが圧倒的に速いので、ソロバンの指の運びとは違う方法で暗算計算する生徒もたくさんいますが、初心者~中級者は常に指の動かし方を意識しながら暗算練習に取り組んでいきましょう。(余談ですが、段位検定の試験官をやっていると、指を大きく動かしたり、全く動かさなかったり、まさに十人十色です。絶対的なスタイルがある訳ではないので、生徒本人がもっともやり易い方法がベストです)

## 最後に...

暗算スキルは決して簡単には身に付きません。一定の練習量と時間が絶対に必要です。もちろん同時にソロバンを使った練習も必要です。3級暗算までは割とスムーズに進む生徒でも、2級以上で出てくる見取り暗算3ケタの加減算は多くの生徒が躓きます。1ケタと2ケタはスラスラとアタマの中に入っていくのに、3ケタになると途端に苦しみ始める生徒が大半です。このような場合は、ペーパー上の数字を足し引きする練習だけではなく、フラッシュ暗算とか読上げ暗算などメリハリをつけ、少し工夫しながら練習をしていけば必ず出来るようになりますので、決してあきらめずに続けていきましょう。苦勞&努力して身に付けた暗算スキルは、大人になってもしっかり使えますよ~!